1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093500090		
法人名	医療法人 親和会		
事業所名	グループホームふる里		
所在地	福岡県糸島市二丈深江2359-2		
自己評価作成日	平成28年11月28日	評価結果確定日	平成29年1月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

自然豊かで静かな環境の中、入居者の方々と四季を楽しみながら、ゆったりとマイペースで過ごせるような雰囲気づくりや支援に努めています。家族の面会や交流も多く、家族との良い関係づくりも職員全員が心がけています。近隣に民家はありますが、ボランティアの協力もあり、地域色の強いグループホームです。また、併設の老人保健施設やデイケアとの交流や協力体制もあり、入居者が安心して楽しく過ごしていただけるよう、みんなで工夫しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成28年12月7日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふる里」は平成12年の開設から間もなく16年を超える、老健と隣接された2ユニット型グループホームである。入居者も長く住まわれる方が多く、職員も開設時から2名が勤務している。老健を母体に持つことで、医療連携や健康管理、災害協力、勉強会、社員採用などで一体的な運営がされており、毎年恒例の「ふる里祭り」は合同行事として地域にも開放している。自然に囲まれた山の中腹にある環境下で、季節の移り変わりや、玄界灘も眼下に望め、雄大な景色が施設内から楽しめる。家族も協力的でほかの入居者とも家族のように仲良く過ごしており、隣接の老健やデイサービスと行き来する方もいる。地域密着型事業所として人間関係を密に、施設自体が馴染みの場所となるような家庭的な雰囲気を目指している。昨年から新たに看護師も入職し、今後も地域福祉を支える事業所としての活躍が大いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	☐ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	☐ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	☐ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	☐ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で作った理念を事業所内に掲示し、いつでも確認できるようにしている。また、法人全体の理念は週一回の朝礼時に参加者全員で唱和している。	10年ほど前に職員と作り上げたグループホームの独自理念があり、5年ほど前に見直しを行ったが、そのままでも活用している。玄関や事務室に掲示されており、入職時にはマニュアル配布し、理念に関しての内容も伝達する。職員も理念に馴染みをもっており、ニュアンスは伝わってきている。	業務に追われて、理念を意識した取り組みがなかなかできていない部分がある。ミーティングを定期的開催するように計画立てて、月の定期的な曜日や、時間帯の設定を職員で話し合っはどうか。その際に事業所理念の唱和をすることなども検討、実現されることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアによる訪問が定期的にある。出来る範囲で外出等を行い、少しでも交流が持てるよう促している。また、入居者が行けない時は職員だけの交流も行っている。	数年前から地域ボランティアの訪問が月1回程度ありイベントのほか、傾聴相談や調理の手伝いなどしてもらったこともある。老健とも一緒に開催する「ふる里祭り」は駅などの掲示で地域にもご案内し、近隣施設での催しや、深江祭りなど入居者も行ける時は一緒にお連れしている。キャラバンメイトの講師活動も管理者が行政に依頼を受けて地域に向けて行っている。	地域に向けて入居者と一緒に出向いていく。職員を中心に意識を高めて参加していきたいが、人員配置を含めて現実的に実践できるような方針の検討がなされることに期待したい。自治会加入も含めて、地域情報の収集手段や方法を増やされていくことも望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所のお祭りやボランティア、運営推進会議、認知症キャラバンメイトへの参加などを通じて行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、事故・異動・入退居・身体拘束状況・行事等の実施状況を報告している他、意見交換の時間を設けている。地域の高齢者の情報などを頂く事もある。	2ヶ月ごとに開催し、民生委員、ボランティア、地域代表、地域包括から参加されている。家族には全員に案内し、1～3家族が参加する。ホールで開催するため入居者も気軽に参加できる。事業所からの状況、ヒヤリハット報告を行い、地域情報や提案を頂くことも多い。議事録は玄関に掲示し、公開している。敬老会と同日に会議を行ったことがあり、若干家族の参加も増えた。	運営推進会議内で勉強会のような形で、認知症啓もうなどの活動を検討されてはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加や、書類などの提出時等には必ず声をかける等して連携を深められるよう心掛けている。	運営推進会議の案内も毎回しており、年に1、2回程度は参加してもらっている。最近では事業所の指定更新もあり、相談しながらスムーズに運んだ。市主催の事業所連絡会が毎月あり、質問なども出来る。介護申請や報告で月1程度は窓口を訪問しており、その際に相談も出来る。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を法人で設置し、職員全員が理解、実践できるよう定期的な勉強会も行っている。現在身体拘束はないが、玄関は立地条件もあり安全確保の為施錠している。	防犯と近隣の目もないため、玄関は常時施錠し、職員が管理している。エレベーターも職員管理のため、自由には行き来できない。身体拘束委員会が毎月開かれ、事例検討などがなされる。毎月の勉強会でも年に1回程度拘束について行っている。以前四点柵の利用があったが、家族の同意を得たうえで、定期的に見直しも行い、今は解消されている。	

H28自己・外部評価表(グループホームふる里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な外部研修や、法人全体での勉強会がある。入居者の身体状況も常に確認し、見過ごす事の無いよう注意している。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	糸島市の研修等に参加する等して、情報や活用方法など学んでいる。個々の必要性については、担当者会議等で検討、支援している。	以前は成年後見制度を利用されている方がいたが、今はない。今後利用を視野に入れる方があり、必要時には説明やパンフレットをお渡ししたりしている。対応の際には市や地域包括などと相談の上支援していく。市の事業所連絡会の中で権利擁護に関する研修にも参加している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、CMを中心に行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では意見交換の時間を設けている。また、面会時にも積極的に会話し、意見や要望を気軽に話して頂けるよう心掛けている。内容は申し送り等を通じて共有できるようにしている。	家族も協力的で、半数以上は月1回程度面会にも来ている。なかなか来られない方には電話などで報告、相談をする。行事などは主に口頭での案内をしている。不定期で年に3、4回事業所だよりを発行することもある。敬老会やクリスマス会などの家族参加行事も口頭でご案内する。	家族からの意見を引き出す取り組みとして、家族会の開催の検討や、家族参加の行事を文書で出欠の確認を行ってはどうか。また、同日で家族との茶話会形式でされるのもよいかもしれない個別報告の方法としても、モニタリングなどを活用した簡易的な状況報告がなされることにも期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者への報告や相談は出来ているが、反映されているとは言い難い。	情報の共有は、1日3回の申し送りで行っており、その際に入居者の情報や気づいた点について話し合っている。日頃何かある際は管理者に直接伝えやすい。入居者の対応に関する意見や情報はよく共有されており、パート職員も含めてわけ隔てなく意見も出されている。	申し送りでの情報共有は出来ているが、定期的なミーティングがないので、予めスケジュールを確保した会議の開催や、開催しやすい時間帯の検討、シフトの調整などを全員で話し合っ、さらに業務改善の場が設けられていくことに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めていると思うが、十分ではない。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	配慮されている。	男女も4:6程度で配置され、20~60歳代までの職員が在籍する。主に調理を担当する職員もおり、年齢を問わず資格や経験を活かして勤務している。休憩時間も確保され、スタッフルームなどで休憩も可能で、希望休暇も調整されている。研修案内や希望も聴取して参加もされる。飾りつけなど手先の器用な職員が能力を活かして取り組んでいる。	

H28自己・外部評価表(グループホームふる里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体での勉強会などを通じて取り組んでいる。	法人の勉強会では、人権に関してそのものよりは認知症高齢者の理解や、接遇などに関するものが多い。市の事業所連絡会の中で権利擁護や人権に関する研修があり、内部での伝達を行っている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での勉強会は定期的で開催されているが、外部研修に参加出来る機会が少ない。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	糸島市地域密着型部会やキャラバンメイト連絡会等を通じ取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学や入所時に、本人、家族からできるだけ話を聞き、アセスメントを行い、家族も含めた関係づくりを心掛けている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気作りや、家族状況を職員が共有できるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク、アセスメントの手順で必要なサービスの見極めが出来るように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や軽作業など、出来る事を探し、役割や日課作り等を行えるよう心掛けている。また、入居者同士の関係作りにも配慮している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出支援や、日常の世話も含めて可能な事はして頂いている。常に情報も共有できるよう、積極的に家族との交流も図っている。		

H28自己・外部評価表(グループホームふる里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の機会は少ないが、面会に来やすい環境作りに努めている。	面会機会は比較的多く、家族の希望で一時帰宅や外泊の支援を行うこともある。以前利用していた他事業所への訪問支援をすることもあった。馴染みの美容室に家族支援で行く方がいたり、知人や友人、併設の施設からの来訪を受けることもある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性等も考え、状況により、食堂や居間のレイアウトを変更したり、職員が介入したりしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後にお見舞に行ったり、終了時に声かけ等行っている。その後も、ケアマネや事業所等を通じて情報を得ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話を聞いたり、感じ摂ったりできるよう心掛けている。	アセスメントは主にケアマネが担当し、入居時には家族から頂いた情報と別に、職員一人一人が食事や入浴、排せつなどに関して気づいた点を漏れのないように書くようにしている。介護更新時や一年程度で身体状況などのケアチェック表も見直し、認定調査情報も照会、参照している。意思疎通の難しい方には家族から聞き取った情報などから試して把握に努める。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、事業者等から情報を得た上でフェイスシートを作成し、職員で共有している。新しく知り得た情報も書き足していくようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送り、モニタリング等で、情報の把握、共有に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や申し送り時のカンファレンス等を活用している。CMIは介護計画を職員に回覧し、意見を求めている。	プラン作成、モニタリングなどは主にケアマネが担当し、半年～一年、変化があった際には随時見直している。毎日3回の申し送りで全員分の情報を共有し、プラン内容は記録とプランを同じファイルに入れることで参照できるようにしている。見直し時に担当者会議を行い、医師などの意見やアドバイスを頂くこともある。	ケアプラン内容の目標の共有、実施確認の手段として実施チェックを別に行ったり、モニタリングを担当できる職員をわけることで、プランやケアに対する意識が高まるように取り組んではどうか。ファイルのとり方で、常にプランが目につくような状態にしても良いかもしれない。

H28自己・外部評価表(グループホームふる里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に記入し、申し送り等を通じて共有し、その内容をCMが介護計画の見直しにも活用している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人事業所やボランティア、家族等の協力も得ながら、出来る限り柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの協力はありますが、積極的に地域資源を活用できているとは言い難い。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や専門医等は、本人、家族の希望を取り入れている。また、適切な医療が受けられるよう、家族や併設老健にも協力して貰いながら取り組んでいる。	希望があれば以前からのかかりつけ医を継続することも可能で、基本的には家族に通院介助してもらうが事業所からの同行や通院介助することもある。提携医の場合は2週～月1回の往診を受けている。昨年からは看護師も入り、老健との医療連携とともに、健康管理に努めている。家族とは口頭で情報の共有を進める。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護記録や申し送りを通じてGH看護師が把握できるようにしている。また、併設老健看護師の協力もある。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には訪問などを行い、状態の把握や病院関係者との連携を図っている。また、平素から受診時等に情報交換をするなど、関係作りに努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りに関する同意書頂いている。早期より、面会時に何気なく会話する等して、看取りに関する考え方や要望などを聞きとるようにしている。かかりつけ医を中心にスムーズに連携できるよう、日頃から情報交換などを行っている。	希望がある方に対しては最期まで支援する方針で、今までに一名の方の看取りを行った。医師立会いの下説明を行い、同意を得たうえで支援をしている。基本的には現状の提携医で緊急対応してもらうが、必要があれば在宅診療医の活用も検討する。	

H28自己・外部評価表(グループホームふる里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の勉強会が定期的ある。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、夜間と昼間を想定した訓練をそれぞれ1回ずつ行っている。また、運営推進会議等を通じて報告を行い、協力体制作りにも努めているが、地域ぐるみでの避難訓練や具体的な体制作りは出来ていない。	基本的には併設の老健と合同で訓練を行い、想定を変えて2回とも消防署に立ち会ってもらっている。以前地域での避難訓練に老健と一緒に参加した。2階からはテラスに設置された2か所のシューターによる避難が出来る。運営推進会議での案内をしているが、地域からの参加はなかった。備蓄物は老健と共用で準備している。	近隣の介護施設との防災協力の話が打診されているので、今後具体的に煮詰めて、合同訓練や非常時の協力体制の構築が進められることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人での勉強会を定期的に行い、接遇やプライバシーの配慮など実践できるように心掛けている。	年間計画の中で、接遇などをテーマにした勉強会を行う。声掛けなど、相手に合わせて親しみをもってもらいながら失礼のないように気を付けている。入居者同士の人間関係を見ながら、それぞれを尊重した対応を心がけている。写真利用に関しても入居時に同意を得るようにしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のペースで話したり聞き取ったりできるよう配慮し、自己決定出来るよう促している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならない様、常に心掛けている。入居者との会話を通じて希望等を聞きとり、出来る限り希望に添える支援を行えるよう心掛けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族にも協力して頂きながら、着衣や整髪など支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いや食事形態には細かく配慮している。準備や片付けなど、出来る事は促している。食介などもあり、職員と一緒に食事をする事はない。	併設老健の管理栄養士がメニュー作成、食材手配をしており、事業所の職員が調理している。平日の昼は調理専任の職員が準備することもある。入居者も準備や片付けなど手伝えることを手伝ってもらっている。個別の要望として別メニューにすることもできる。外食は家族に連れて行ってもらうことが多い。行事の際には仕出し弁当などにして楽しむことがある。職員は別の物を別の時間に食事している。	

H28自己・外部評価表(グループホームふる里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量がすぐ分かるよう、介護記録に記入している。食事時間や量、形態は状態に応じ臨機応変に対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者により、毎食後口腔ケアを行わない方もいるが、訪問歯科診療などを取り入れ、口腔状態の管理に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、パターンや習慣の把握に努めている。また、かかりつけ医やNSと相談しながら、無理の無い排便コントロールができるよう支援している。	車いす利用の方も多く、排せつ介助を要する方も増えている。自立した方にはあとから聞き取り、排泄チェック表をもとにしてトイレ誘導を行っている。パット使用の改善などは申し送りの中で気づいた職員が随時提案するようにしている。トイレは2か所と、職員用が1か所あり必要な方にはPトイレを使ってもらうこともある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の身体や状態にあった飲食物を提供し、排泄の改善に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めておらず、入浴の好みやその日の状態で行っている。	1,2F共通の造りで、ちょっとした銭湯ほどの広さもある作り付けのタイル張りで、浴槽は埋め込み型で掘さげである。洗面台も二つあり、2人一緒に入っても十分に広い。おむね週2~3回程度の入浴で、時間帯は午前から午後までで入れる。拒まれた際も無理強いせず時間帯や担当を変えて入浴する。川がすぐ傍を流れ露天風呂的な風情がある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室だけでなく、食堂や今でもゆつくり過ごして頂けるよう、レイアウトなどを工夫している。夜間は特に就寝時間等は決めず、入居者のペースに合わせている。夜間の睡眠がスムーズになるよう、日中の活動も心掛けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表を常にすぐ確認できるようファイル、貼り出し等を行っている。処方の変更があった時等は、申し送り等を通じ、特に注意して観察するようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には軽作業などを日課にして頂いている。行事や外出等を利用し、気分転換を図っている。		

H28自己・外部評価表(グループホームふる里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族も含めて支援に当たっているが、希望通りに行えない事も多い。	敷地内での散歩や老健内にある売店での買い物は気軽にできる。気候のいい時は庭木を眺めたり、玄関先のベンチで休み、寒い時期にはドライブなどに出かけている。建物も広く中での歩行訓練にも十分な余裕がある。家族に連れ出してもらったり、用事の折に連れだつて外出することもある。車いすの方も専用車両と一緒に外出している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方には所持、使用して頂いている。現金を所持していなくても、併設老健の売店では預り金より買い物が出来るようになってる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望により介助を行っている。手紙は来る事はあるが、出す事の支援は余り行っていない。個人で携帯電話を持っておられる方もいる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の状態によってこまめに变化させるなど配慮している。掲示物などは出来るだけ季節感が出るよう工夫している。	リビングは三方に窓が開けており、外も開けているため採光も良く開放的である。2階からは海まで望め、掃き出し窓からテラスに出ることもできる。季節感のある飾り付けがなされ、モミジや松ぼっくりの飾り、クリスマス飾りなどで彩られていた。浴室からの薄野原の眺めもよく、夏には蛸も鑑賞できるという。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	レイアウトなどを工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には自宅の確認や、家具、寝具、生活用品の持ち込み等を行い、生活空間の変化が少しでも少ないよう配慮している。	居室は8畳～の広さがあり、家具などを持ち込んでも十分な余裕がある。希望がある際には簡易ベッドを持ち込んで家族が泊まることもできる。窓も大きめで、季節の移り変わりが望め、解放感もある。手動の介護ベッドが備え付けられ、たんすやテレビなどは自由に持ち込める。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすい表示や目印の設置、安全に移動できるレイアウトや環境整備等を心掛けている。また、遠くからでも見守りできる職員配置等に配慮している。		